
2017年度 第1四半期

決算説明資料



2017年 8月10日

2017年度 第1四半期 連結業績



(単位：億円)

	2016.1Q	2017.1Q	同期比増減 (率)	
売上高	1,529	1,779	+ 250	(116%)
営業利益	87	80	▲ 7	(92%)
(営業外損益)	▲2	5	+ 7	—
経常利益	84	85	+ 1	(101%)
(特別損益)	5	▲1	▲ 6	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	53	48	▲ 5	(91%)
自己資本	2,344	2,569	+ 225	(110%)
総資産	5,558	6,367	+ 810	(115%)
経常利益率	5.5 %	4.8 %		
ROE	2.3 %	1.9 %		
EPS	27.27円	24.72円		
自己資本比率	42.2 %	40.3%		
ネットD/Eレシオ	0.55	0.60		

2017年度 第1四半期 事業セグメント別売上高・経常利益

		2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高・利益増減要因
産業ガス関連	売上高	362	368	101%	<ul style="list-style-type: none"> ●半導体・電子部品などエレクトロニクス向けガス供給が高稼働で推移 ●炭酸ガスの原料供給元における粗ガス原料の生産変動が影響 ●高炉向けガス供給において顧客工場の大型工事・設備トラブルが影響
	経常利益	36	29	80%	
ケミカル関連	売上高	166	181	109%	<ul style="list-style-type: none"> ●市況変動に伴いコークス炉ガス精製の価格が上昇 ●タール蒸留事業は、ニードルコークスの市況が回復に転じ、赤字幅が縮小
	経常利益	▲6	2	-	
医療関連	売上高	257	372	145%	<ul style="list-style-type: none"> ●医療関連サービス（SPD・滅菌）の新規受託により売上高が増加 ●川本産業（株）が新規連結 ●海外展開や医療関連サービスの新規受託案件の立上げに伴うコストが増加
	経常利益	11	10	87%	
エネルギー関連	売上高	91	102	113%	<ul style="list-style-type: none"> ●LPガスは工業用の燃料転換や電子マネーによる新サービスで数量増 ●原油価格の上昇に伴い、LPガス・灯油の販売価格が上昇
	経常利益	7	7	107%	
農業・食品関連	売上高	268	344	128%	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜系飲料の需要が拡大し、飲料事業が好調に推移 ●AW+勝食品（株）、大山ハム（株）、（株）プレシアHDが新規連結
	経常利益	11	13	118%	
物流関連	売上高	103	109	107%	<ul style="list-style-type: none"> ●荷扱量は増加したものの、車両の更新投資や軽油価格の上昇などコストが増加
	経常利益	6	5	84%	
その他	売上高	282	303	107%	<ul style="list-style-type: none"> ●海水事業は、環境事業と赤穂工場の電力事業が順調に推移 ●エアゾール事業は、家庭用品の販売が増加し、堅調に推移 ●情報電子材料事業は、自動車・半導体向けの需要が拡大し、順調に推移
	経常利益	19	19	105%	
(調整額)	経常利益	1	0	2%	-
合計	売上高	1,529	1,779	116%	-
	経常利益	84	85	101%	

※セグメント区分の変更に伴い、前年度の数値情報については、変更後のセグメント区分に基づき算定し直しております。

2017年度 第1四半期 事業セグメント別業績内訳（1）

<産業ガス関連セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
ガス	282	280	99%	<ul style="list-style-type: none"> ●半導体、自動車をはじめとした幅広い製造業種で底堅いガス需要が継続 ●高炉向けガス供給において顧客工場の大型工事・設備トラブルが影響
機器・工事	80	87	109%	<ul style="list-style-type: none"> ●ドライアイススノー精密洗浄システムなどガスアプリケーションの製作案件が増加
計	362	368	101%	—

<ケミカル関連セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
コールケミカル	110	115	104%	<ul style="list-style-type: none"> ●市況変動に伴いコークス炉ガス精製の価格が上昇 ●粗ベンゼンは販売数量が減少
ファインケミカル	22	29	131%	<ul style="list-style-type: none"> ●高機能回路製品が伸長し、堅調に推移
川崎化成工業	33	37	110%	<ul style="list-style-type: none"> ●汎用品の販売価格が回復し、キノン系製品の販売が大幅に拡大
計	166	181	109%	—
シーケム(持分益)	▲7.7	▲3.1	-	<ul style="list-style-type: none"> ●ニードルコークスの市況が回復に転じ、当初の想定を上回るペースで赤字幅が縮小

<医療関連セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
医療ガス	22	22	100%	●新規取引病院の獲得により数量増加
設備	41	47	116%	●前年度受注の手術室工事案件が進捗し、堅調に推移
医療サービス	138	177	129%	●医療関連サービス（SPD・滅菌）の新規受託により売上高が増加
医療機器	10	11	114%	●一酸化窒素吸入療法が堅調に推移
在宅医療	23	23	99%	●酸素濃縮器レンタルを中心に前年並み
その他	23	91	390%	●川本産業（株）が新規連結 ●注射針は海外向けが回復、歯科関連の装置販売が堅調に推移
計	257	372	145%	—

<エネルギー関連セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
LPガス	85	96	114%	●LPガスは工業用の燃料転換や電子マネーによる新サービスで数量増 ●原油価格の上昇に伴い、LPガス・灯油の販売価格が上昇
天然ガス関連 <small>ほか</small>	6	6	99%	●天然ガス供給は前年並み、LNGタンクコンテナは堅調に推移
計	91	102	113%	—

<農業・食品関連セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
食品ソリューション	39	109	277%	<ul style="list-style-type: none"> ●新規取引先の獲得によりハム・デリカ事業が堅調に推移 ●AW+勝食品（株）、大山ハム（株）、（株）プレシアHDが新規連結
農 産	101	102	101%	<ul style="list-style-type: none"> ●原料不足の影響があるも、青果物の卸・加工事業が堅調に推移 ●農業機械の販売が順調に推移
飲 料	128	133	104%	<ul style="list-style-type: none"> ●野菜系飲料の需要が拡大し、飲料事業が好調に推移
計	268	344	128%	—

<物流関連セグメント>

※2016年度分は運送と3 P Lを合算して集計

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
運 送	91	47	107%	●一般貨物分野において荷扱量が増加
3 P L		50		●流通チェーン向けの配送量が伸長
車 体	12	12	105%	●工場拡張によりトレーラーの販売台数が増加
計	103	109	107%	—

運送：トラックやシャーシなどを使った一般貨物分野と産業ガスや医療品の輸送などの専門輸送分野

3 P L（サード・パーティー・ロジスティクス）：配送や保管、荷受など、荷主の物流全体を一括して請け負う物流分野

車体：北海道車体（株）を中心とした車体製作分野

<その他セグメント>

（単位：億円）

	2016.1Q	2017.1Q	前年同期比	主な売上高増減要因
日本海水	60	65	108%	●環境事業、赤穂工場の電力事業が順調に推移
タテホ化学	21	22	105%	●海外需要の拡大によりヒーター用電融マグネシアの販売が増加
海 水	81	87	107%	-
情報電子材料	84	93	111%	●前年度に中国経済の減速による影響を受けたスマートフォン向けが回復 ●自動車や半導体向けの材料販売が堅調に推移
ゾ ル	46	50	110%	●エアゾールは、殺虫剤など家庭用品の販売が増加
そ の 他	72	73	102%	●Oリングは、シール事業がエレクトロニクス業界の好調を受け順調に推移
計	282	303	107%	-

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。

そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。